



令和元年即応予備自衛官雇用企業主等訓練研修



自衛隊栃木地方協力本部 援護課 予備自衛官室

栃木リーガーズニュース



No. 41
2019年10月



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 諸石 正弘 1等陸佐）は、令和元年7月27日から28日の間、陸上自衛隊高田駐屯地及び関山演習場（新潟県妙高市）において、即応予備自衛官雇用企業主及び今後即応予備自衛官雇用が見込まれる企業を主体とした9社14名もの多数の企業主等の参加を得て、即応予備自衛官雇用企業主等訓練研修を実施した。

1日目は、陸上自衛隊高田駐屯地において、隊員食堂での体験喫食を行い、次いで記念館見学、装備品（車両）展示を研修し、企業主等にとって自衛官らの生活勤務環境を肌で感じる機会となった。

その後、上越市において高田駐屯地の第3代第13師団長を務めた【長岡 外史】の思い入れが強い旧師団長官を見学し、軍都として栄えた上越市高田の歴史の造詣を深めた。

2日目は、関山演習場において第48普通科連隊（連隊長 高根 徳通 1等陸佐）が実施する即応予備自衛官の訓練を研修した。

冒頭連隊長の挨拶、続いて第1科長から本訓練研修内容等の説明を受けた後、第4中隊の「逆襲対処訓練」、重迫撃砲中隊の実弾を使用した「120迫撃砲射撃」を実施。その後、炊事車の装備品展示を研修後、参加企業の社員でもある即自隊員を交え、体験喫食を実施した。

当日は、台風も予想されていたが、参加者の中の「晴れ男」の力も借りて、天候にも恵まれ、規律正しく黙々と訓練に励む即自予備自衛官の姿を目の当たりにした雇用企業主からは、「想像以上に厳しい環境において訓練をしている即自予備自衛官としての社員を間近で見て、誇らしく感じた。今後、更に出頭しやすき環境を整えていきたい。」「即自予備自衛官制度の重要性を認識することが出来た。即自予備自衛官を積極的に雇用することで制度に貢献したい。」との意見も聞かれ、有意義な研修となった。



第4中隊訓練研修

体験喫食（高田駐屯地）



重迫撃砲中隊訓練研修（観測）



激励品の交付

令和元年8月8日（木）宇都宮グランドホテルで栃木県任期制隊員合同企業説明会が開催され、企業49社、任期制隊員22名が参加し、隊員の再就職活動の一助とすることが出来、参加企業の特性として、サービス業（警備・設備管理・整備等）26%、次いで運輸業20%、製造業18%の順に多く、昨年度に比し県内の就職援護基盤は充実している。



説明会の様子



挨拶をする本部長



熱心に各企業の説明を聞く任期制隊員

令和元年度栃木県任期制隊員合同企業説明会



1刀目 即応予備自衛官



2刀目 警備員

「二刀流」
第48普通科連隊第4中隊 即応予備3等陸曹 川上 貴弘
私は、即自予備自衛官に任官して約8年、本業との「二刀流」をやってきました。大変なことは、訓練出頭における調整が、やはり一番苦勞します。普段の勤務態度は勿論のこと、自分への信頼、即自への周知が必要だからです。「即自訓練に出ているから駄目だ」と言われないよう日々、緊張感をもって勤務しています。

「二刀流」
第48普通科連隊重迫撃砲中隊 即応予備1等陸曹 薄井 忠志
二刀流ならぬ三刀流。私の家は兼業農家をしており、農業と即自として本業の仕事を掛け持ちしています。本業である施設機材のオペレーターの仕事は、この3月に転職したばかりで奮闘の毎日です。当初は、「資格を持っていないし、少し練習したら直に一人前になれるかな？」などと思っていました。想像以上に奥が深い職業です。次に農家としてですが、稲作一本ではあるものの、兼業の割には大きくやっています。本業と即自訓練以外ほとんど農作業といった感じですが、即自については、会社の理解と協力もあり、苦勞する事なく毎回楽しく参加できています。あと1年ちよつとで任期満了になりますが、最後まで悔いの無い様、頑張りたいと思います。



CH-47の前で記念撮影



第4中隊の様子

令和元年8月24日（土）北宇都宮駐屯地において、第12ヘリコプター隊（相馬原）の輸送ヘリコプターCH-47通称「チヌーク」による航空機体験搭乗が実施された。

令和元年8月22日（木）第48普通科連隊第4中隊、重迫撃砲中隊の両中隊において、相馬原駐屯地で家族コミュニケーションが催され、普段とは違う隊員の姿と10月に実施予定の連隊検閲に向けた団結力強化も含め、和やかな雰囲気で行われました。

体験搭乗

第48普通科連隊家族コミュニケーション